

平成 22 年度  
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(平成 21 年度対象)

平成 23 年 2 月

深谷市教育委員会

## 目 次

1	趣 旨	1
2	点検評価の目的	1
3	点検評価の対象及び方法	2
4	「深谷市総合振興計画」の施策体系図（施策大綱の＜教育・文化＞分野）	
	（1）施策体系	3
	（2）施策展開の方向、主な施策・事業	4
5	点検評価表及び評価指標	
	（1）明日の人材を生む学校教育の推進	6
	（2）家庭・地域の教育力の向上	8
	（3）健全な青少年の育成	10
	（4）生涯を通じた学習活動の推進	12
	（5）深谷らしい文化の創造	14
	（6）生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	16
6	結びに	18

## 1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 27 条により、すべての教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされました。

本市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、「教育委員会の事務執行に関する点検評価」（以下「点検評価」という。）を実施し、報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検評価の目的

この点検評価は、法律改正を受け、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックすることにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

### 3 点検評価の対象及び方法

本市教育行政の基本施策は、市政運営の基本となる計画である「深谷市総合振興計画」（計画期間：平成 20 年～平成 29 年度）に位置づけられています。

このため、点検評価の対象は、総合振興計画に位置づけられた施策のうち、教育委員会が執行した施策とし、平成 21 年度の実績について点検評価を実施しました。

具体的には、同計画の施策大綱「第 3 章 次代を担う人と文化を育むまちづくり<教育・文化>」中の施策体系の 6 本柱各々を評価単位として点検・評価しました。

点検評価表は、市が実施する行政評価表を最大限活用することで整合性の確保、作業効率化に努めました。総合評価は、「A B C D」評価とし、区分の目安として、

- A：特によい
- B：よい
- C：あまり思わしくない
- D：思わしくない

としました。

また、この区分の補足説明として、「評価コメント」欄を設けるとともに、各施策を定量的説明の観点から「評価指標」による表やグラフを用い、把握しやすいようにしました。

各評価指標の目標は、市の行政評価における目標（前期基本計画の最終年度である平成 24 年度の目標値）と一致し、これに対する経過説明として、平成 19 年度から平成 21 年度までの 3 年度間の推移を示すこととしました。

#### 4 「深谷市総合振興計画」の施策体系図（施策大綱の＜教育・文化＞分野）

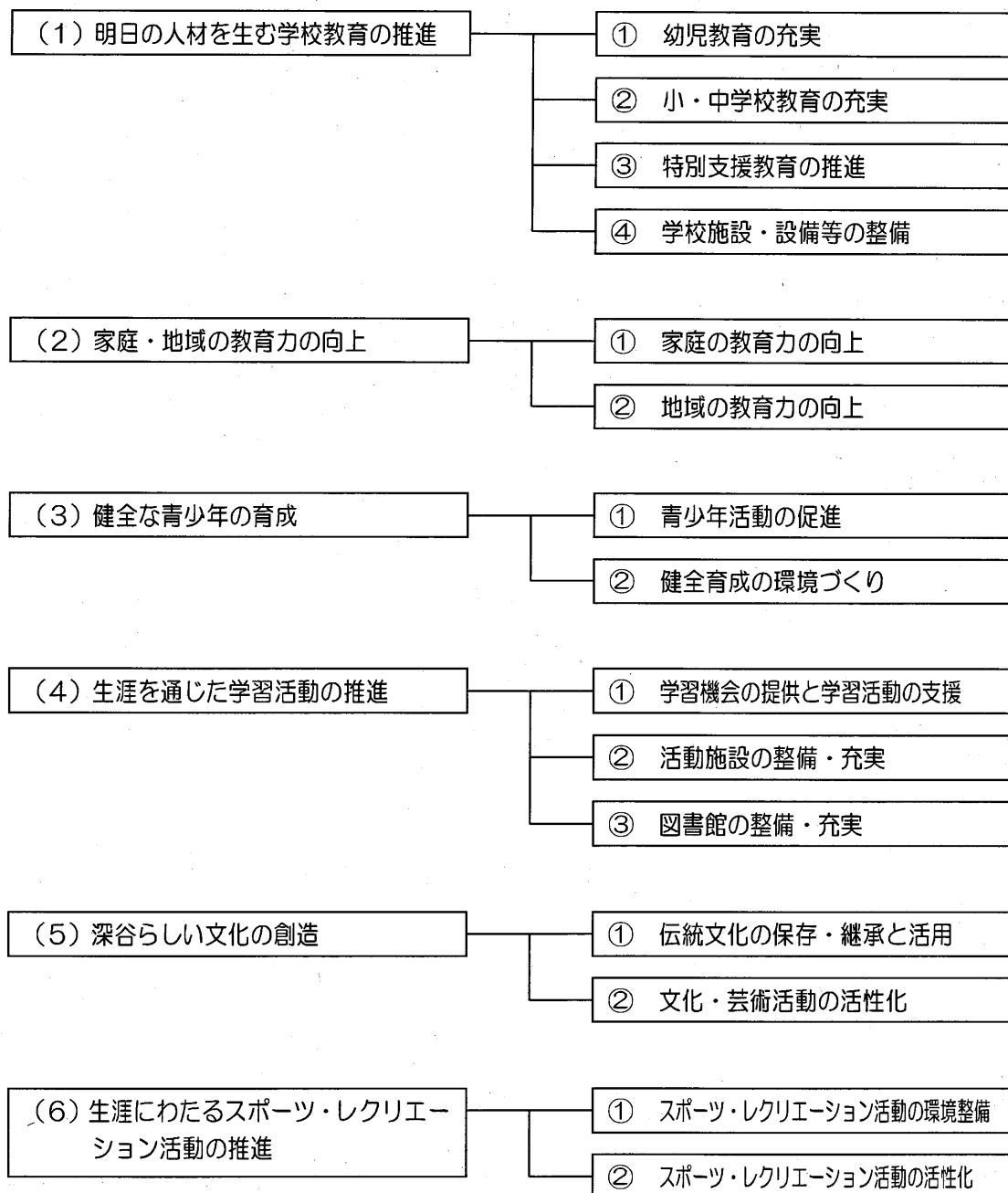
##### (1) 施策体系

##### 【大項目】 施策大綱

「第3章 次代を担う人と文化を育むまちづくり＜教育・文化＞」

##### 【中項目】 施策名（点検評価作成対象）

##### 【小項目】 施策展開の方向



(2) 施策展開の方向、主な施策・事業

【大項目】次代を担う人と文化を育むまちづくり<教育・文化>

【中項目】施策名 (点検評価作成対象)	【小項目】	施策展開の方向	主な施策・事業
(1) 明日の人材を生む学校教育の推進	①幼児教育の充実	幼稚園教育と学校教育との連携を図りながら、幼稚園教育の充実に努めます。	①幼児教育に関する情報発信 ②幼稚園と小学校の連携による幼稚園教育の充実 ③「幼・小・中が連携した教育」の拠点づくり
	②小・中学校教育の充実	「確かな学力」の向上を図るよう、教育の質の向上に努めるとともに、現代社会の課題に対応した教育を推進します。また、地域とも連携しながら、健全な社会性を身につけた子どもたちを育てていきます。	①教育の質の向上 ②現代社会の課題に対応した教育 ③地域と連携した教育の推進 ④「幼・小・中が連携した教育」の拠点づくり ⑤生徒指導・相談体制の充実 ⑥不登校対策の推進
	③特別支援教育の推進	障害のある子どものニーズに対したきめ細かな教育を推進します。	①特別支援補助員の配置拡大 ②通級指導教室の充実、拠点づくり
	④学校施設・設備等の整備	校舎の耐震化など、施設・設備の計画的な整備に努めます。	①校舎・体育館等の施設整備計画の策定と計画的な整備・改修
(2) 家庭・地域の教育力の向上	①家庭の教育力の向上	家庭教育の重要性の認識を引き出すとともに、問題を抱える親や子がそれぞれ相談できる体制の充実に努めます。	①家庭教育学級の充実 ②相談機会の充実 ③基本的な生活習慣を身につけるための啓発活動
	②地域の教育力の向上	地域社会において、世代間交流を推進しながら、子どもを教育していけるよう、連帯意識の向上を図ります。	①地域における交流の推進
(3) 健全な青少年の育成	①青少年活動の促進	青少年がさまざまな体験活動やボランティア活動等を重ね、たくましく成長していくよう、リーダーを育成しながら、その自主的な活動を促進します。	①青少年の地域活動の促進 ②青少年リーダーの育成 ③青少年団体の育成
	②健全育成の環境づくり	地域ぐるみで社会環境浄化活動や非行防止活動等に取り組んでいくよう支援に努めます。	①青少年健全育成団体の活動の支援 ②家庭、学校、地域が一体となった社会環境浄化活動の推進 ③非行防止活動の推進

【中項目】施策名 (点検評価作成対象)	【小項目】	施策展開の方向	主な施策・事業
(4) 生涯を通じた学習活動 の推進	①学習機会の提供 と学習活動の支 援	多様化する学習ニーズに 対応できるよう、講座・教室 内容の充実を図るとともに、 学習成果の活用の場づくり を進めます。 また、リカレント教育を推 進していきます。	①学習情報の提供 ②講座・教室内容の充実 ③学習の成果を発揮する機会・場 の提供 ④リカレント教育の推進
	②活動施設の整 備・充実	施設の老朽化等に対応し て、公民館（生涯学習センタ ー）の充実に努めます。	①公民館（生涯学習センター）の 整備・充実
	③図書館の整備・ 充実	施設・設備の整備を図りな がら、図書館資料やサービ スの充実に努めます。 また、読書活動を進め、図 書に親しむ子どもを育てて いきます。	①施設・設備の充実 ②図書館資料の充実 ③サービスの充実（図書館のネッ トワーク化など） ④読書活動の促進
(5) 深谷らしい文化の創造	①伝統文化の保 存・継承と活用	地域に伝えられ、残されて きた有形・無形の文化財の調 査・研究、保護・保存や継承 に取り組むとともに、市民の 共有する財産として活用を 図ります。	①指定文化財の保護・保存と活用 ②無形民俗文化財の継承 ③文化財の調査・研究 ④文化財の展示・管理施設の整 備・充実
	②文化・芸術活動 の活性化	文化・芸術の鑑賞機会の拡 充や発表機会の確保を図る とともに、市民の自主的な活 動の支援に努めます。	①文化・芸術の鑑賞機会の拡充 ②文化団体等の自主的な活動の 支援 ③市民の文化・芸術活動の発表機 会の提供 ④地域ゆかりの文化の振興 ⑤文化施設の再整備
(6) 生涯にわたるスポー ツ・レクリエーション 活動の推進	①スポーツ・レク リエーション活 動の環境整備	スポーツ・レクリエーショ ン施設の整備・充実、指導者 の育成など、身近な場でスポ ーツに親しめる環境づくり を進めます。	①スポーツ・レクリエーション施 設の整備・充実と利用方法の見 直し ②指導者の育成
	②スポーツ・レク リエーション活 動の活性化	スポーツ・レクリエーショ ン活動に参加する機会の充 実を図るとともに、団体の活 動支援に努めます。	①スポーツ・レクリエーション活 動への参加機会の充実 ②スポーツ・レクリエーション団 体の活動支援 ③総合型地域スポーツクラブ設 立の支援

5 点検評価表及び評価指標

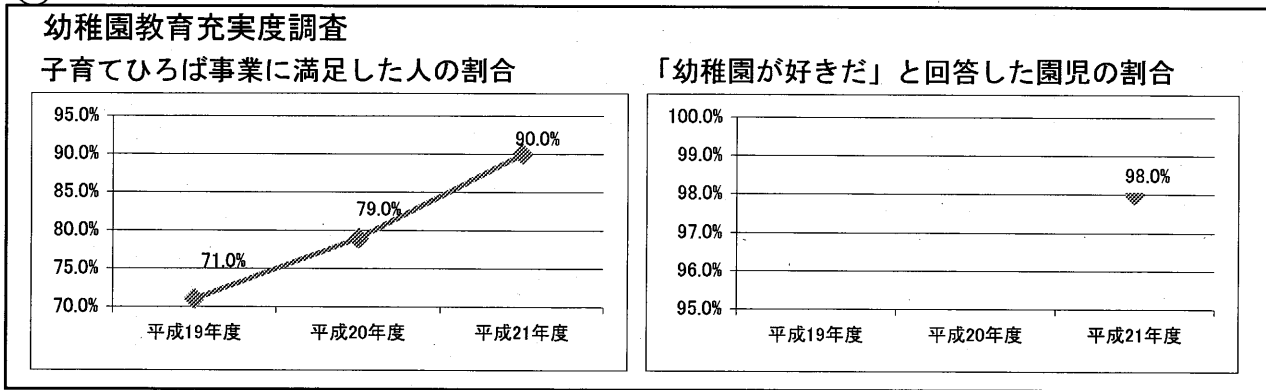
点検評価表

【中項目】 施策名	(1) 明日の人材を生む学校教育の推進			
評価担当課	学校教育課	関連課	教育総務課	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進行や高度情報化、グローバル化の進展、価値観の多様化など、社会経済環境の変化が急激に進み、子どもを取り巻く環境は大きく変化している。</li> <li>・人格の完成とともに健全な社会性を身につけた児童・生徒の育成が重要な課題になっており、家庭・地域と連携した取組を強め、体験学習や校外体験活動等の充実により規範意識や公共心を育てていくとともに、不登校児童・生徒の支援のため教育相談等の充実を進めていく必要がある。</li> <li>・全国的な課題にもなっている子どもの学力向上に向けて、子どもの学習意欲を促すよう、教員の指導力や家庭の教育力の向上が必要である。</li> <li>・通常の学級で学ぶ障害のある児童・生徒が増えており、個々のニーズに応じた教育が求められている。これからは、学習や学校生活上の介護の支援を行いながら、環境の整備や教材教具の充実を進めるとともに、特別支援教育の視点に立った教育の充実を進める必要がある。</li> <li>・子どもたちが安心して学べる安全な教育環境づくりのため、老朽化した校舎等の整備・改修が必要である。この中で、学校校舎や体育館の耐震化に計画的に取り組んでいく必要がある。</li> <li>・幼稚園教育は、その後の小学校、中学校での教育の基礎をつくる極めて重要な教育であり、幼稚園、小学校、中学校の連携を強化し、系統的な教育の充実を進める必要がある。</li> </ul>			
基本方針	<p>次代を担う子どもたちの豊かな人間性と「確かな学力」を育むために、学習環境の整備・充実に努めるとともに、家庭、学校、地域が連携しながら教育内容の充実に取り組んでいく。</p>			
【小項目】 施策展開の方向	①幼児教育の充実	H19 決算額(千円) 54,533	H20 決算額(千円) 48,938	H21 決算額(千円) 105,756
	②小・中学校教育の充実	H19 決算額 822,106	H20 決算額 932,460	H21 決算額 843,268
	③特別支援教育の推進	H19 決算額 19,339	H20 決算額 38,862	H21 決算額 37,363
	④学校施設・設備等の整備	H19 決算額 872,276	H20 決算額 849,364	H21 決算額 473,984
H21 年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てひろばや各園の行事を通して幼児教育に関する情報発信、幼・小・中交流事業の推進及び教職員の指導力の向上を目指した研修会を実施した。</li> <li>・確かな学力の向上に向けた取組及び英語研究開発学校の取組の充実、研究所専門員及びスクールソーシャルワーカー、専門家チームを有効活用した生徒指導、相談体制の充実を図った。</li> <li>・特別支援補助員の配置、通級指導教室の充実及びICT（情報通信技術）の整備を行った。</li> <li>・校舎、体育館等の施設整備計画の策定と計画的な整備、改修を行った。</li> </ul>			
総合評価	A	※評価の目安 A：特によい B：よい C：あまり思わしくない D：思わしくない		
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育と学校教育との連携を図りながら、幼稚園教育の充実に努めることや、教育の質の向上や現代社会の課題に対応した教育の推進に努めている。また、幼・小・中が連携した教育の推進や教育と福祉の創造的連携を計画どおり進めている。</li> <li>・特別支援補助員を配置することで、支援が必要な児童生徒に細やかな配慮をすることができ一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育が推進された。</li> <li>・市内全小中学校年2回の巡回相談の実施をはじめとする特別支援教育の充実、さらに市立教育研究所を活用し「すべての子どものための教育」が推進された。</li> <li>・学校施設の耐震化や老朽改修工事など、教育委員会事務局の計画のとおり、業務を遂行することができた。耐震化の進捗状況は、県内で上位に位置するものである。</li> <li>・以上の理由から、平成21年度の事業状況は特によい状況であり、Aと評価した。</li> </ul>			

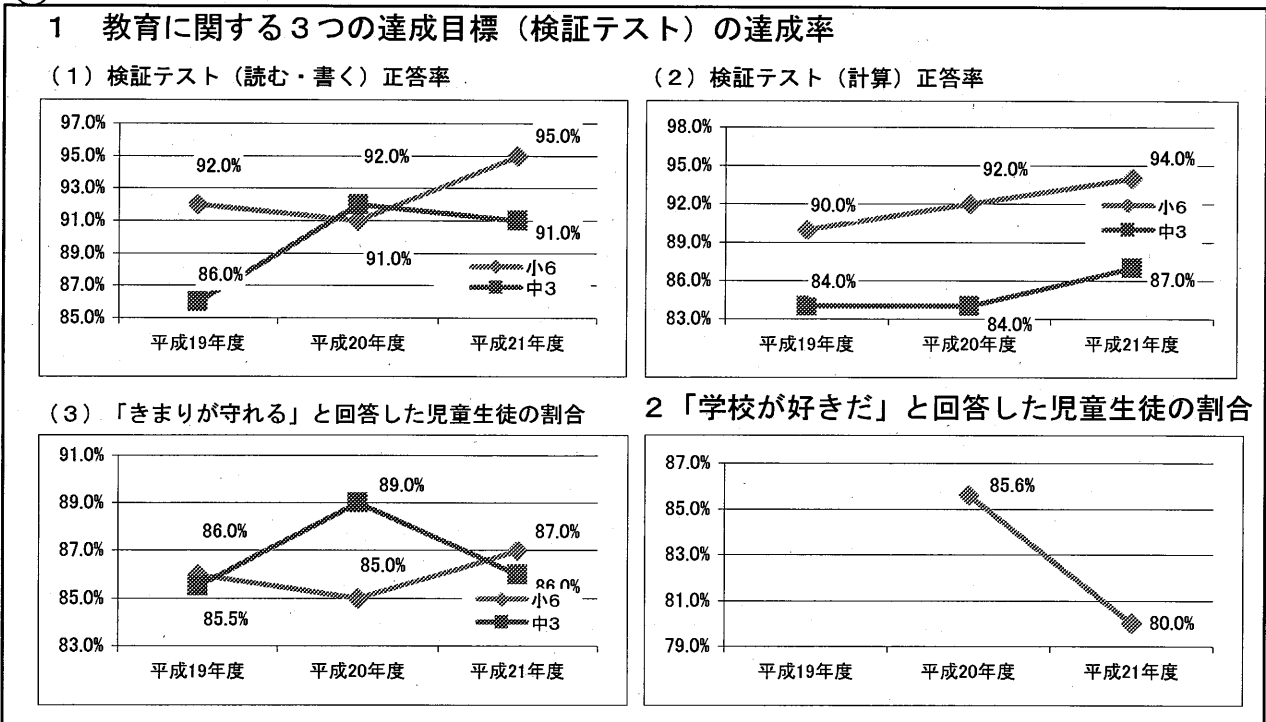


# 評価指標

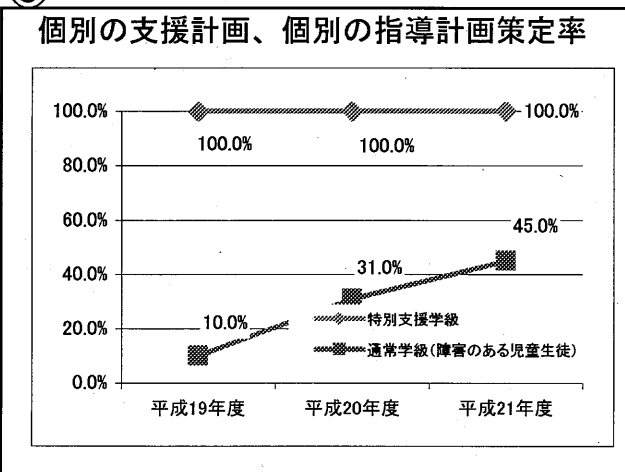
①



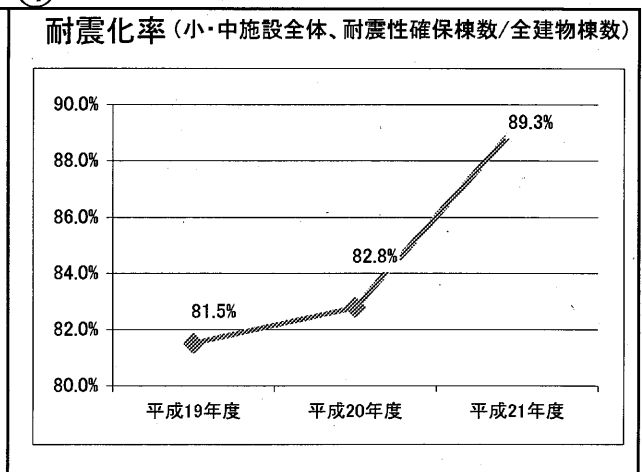
②



③



④



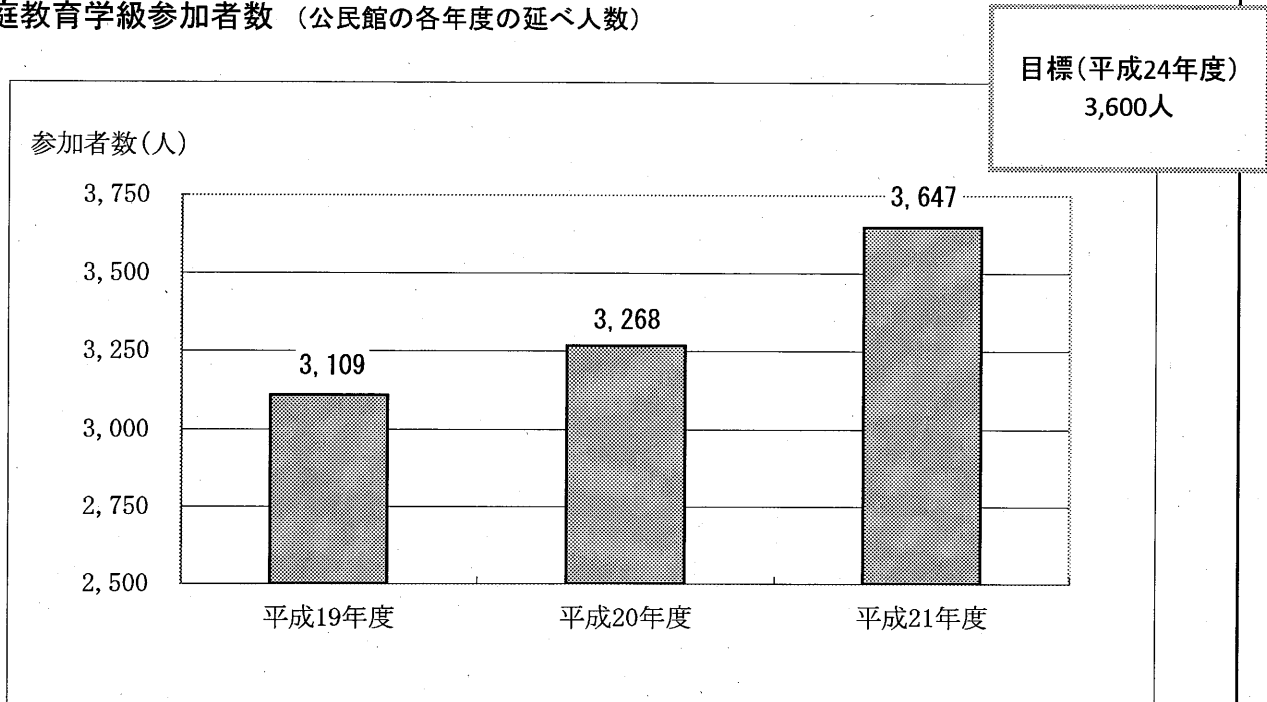
【中項目】 施策名	(2) 家庭・地域の教育力の向上
--------------	------------------

評価担当課	生涯学習課	関連課	学校教育課	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・核家族化や少子化の進行、地域社会の連帯意識の希薄化など、家庭や地域の教育力が低下し、また、いわゆる「大人になりきっていない」親の増加により、児童虐待や養育放棄が増加するとともに、一方では、過保護・過干渉・放任等の問題も生じている。</li> <li>・親も子どもそれぞれの生活リズムを優先し、個室化・孤食化と表現されるように家族団らんの機会が減少し、家族の絆が弱くなる場合も多くなっている。</li> <li>・このような子どもを取り巻く環境の変化により、基本的な生活習慣を身につけることができず、その結果、生活パターンが夜型化し、起床時間が遅くなっている。しかし、朝食欠食の子どもは少なくなり、改善が図られている。</li> <li>・家庭の教育力の回復は重要な課題であり、家庭環境が子どもに与える影響の大きさについて、親が認識を深めて学習意欲を高めるよう、啓発を強化するとともに、家庭、学校、地域の連携のなかで地域の支援体制を構築していくことが求められている。</li> </ul>			
基本方針	地域ぐるみで子どもを育てていくという考え方のもとに、啓発活動の充実や地域社会の連帯意識の向上等により、家庭や地域の教育力の向上に取り組んでいく。			
【小項目】 施策展開の方向	①家庭の教育力の向上	H19 決算額(千円) 619	H20 決算額(千円) 660	H21 決算額(千円) 707
	②地域の教育力の向上	H19 決算額 300	H20 決算額 300	H21 決算額 300
H21 年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の教育力の向上に関しては、家庭教育だより「まごころ」の発行や、公民館事業として家庭教育学級などに取り組んだ。また、親の学習講座を小学校5校で実施した。</li> <li>・地域の教育力の向上に関しては、小学校・中学校・市立幼稚園PTAや地域の青少年育成団体と連携し、公民館事業や地域活動などを通じ、子どもと地域との関わり強化を行った。</li> </ul>			
総合評価	<b>B</b>	※評価の目安 A：特によい B：よい C：あまり思わしくない D：思わしくない		
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育だより「まごころ」は中学生以下の子どもを持つほとんどの家庭に配布されており、家庭・地域の教育力の向上に貢献している。</li> <li>・子どものしつけや教育に不安を持つ親や地域の教育力を一層向上させるため、地域や学校と連携して「親が親として育ち、力をつける」ための「親の学習講座」を継続して推進していく必要がある。</li> <li>・公民館事業の家庭教育学級や子ども会活動を関係者だけでなく地域の人々に広く浸透させ、及び参加していただくためには、たとえば、家庭教育学級の取組の一つである「親の学習講座」を12公民館全てに拡大するなどの対策が必要であり、Bと評価とした。</li> </ul>			

# 評価指標

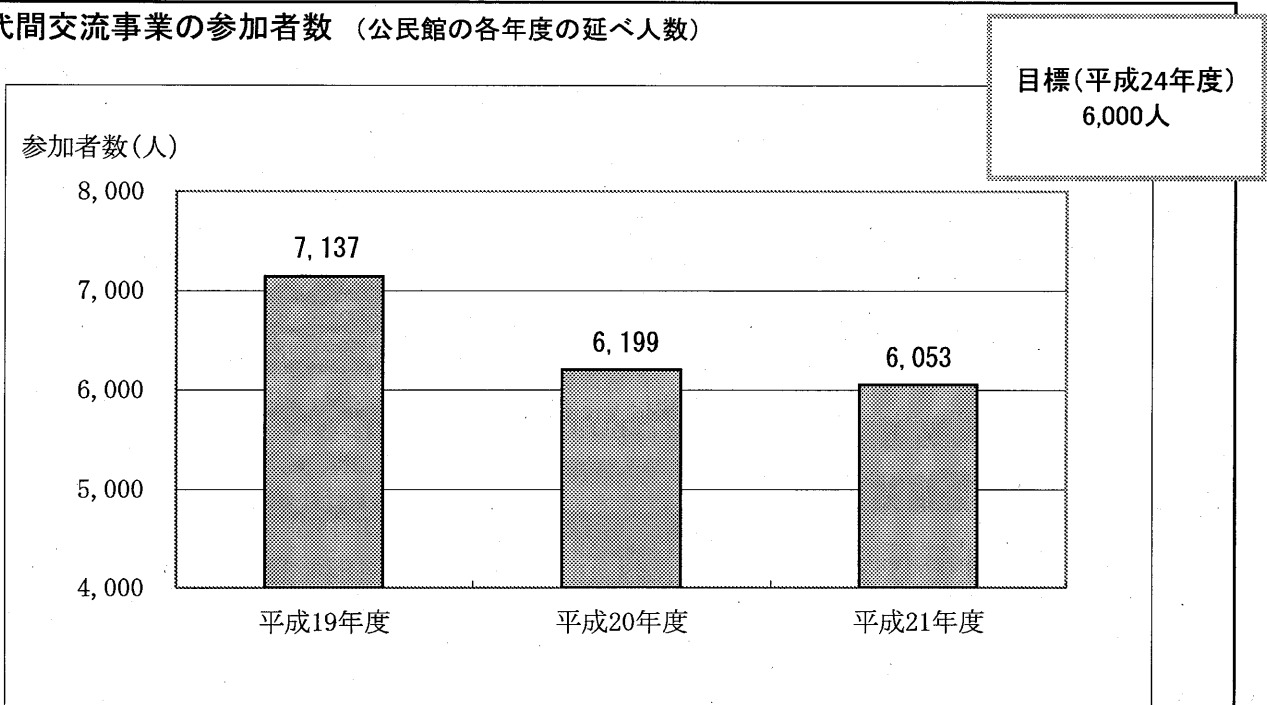
①

家庭教育学級参加者数（公民館の各年度の延べ人数）



②

世代間交流事業の参加者数（公民館の各年度の延べ人数）



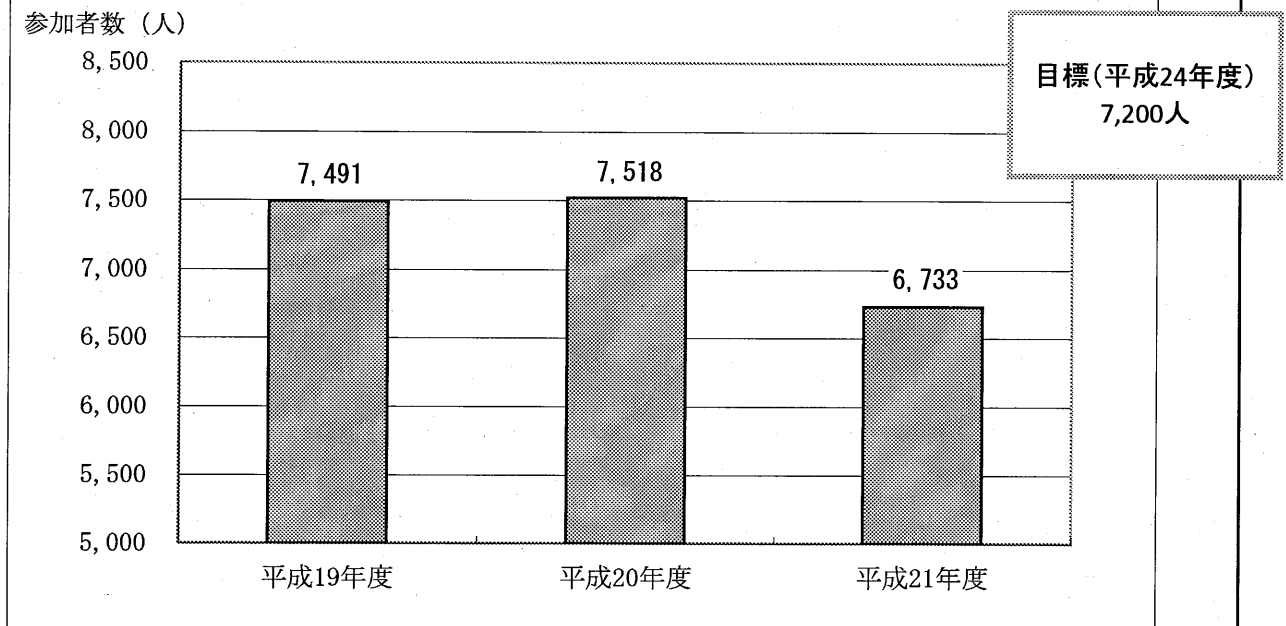
【中項目】 施策名	(3) 健全な青少年の育成
--------------	---------------

評価担当課	生涯学習課	関連課	学校教育課	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度情報化や少子高齢化等の社会環境の急激な変化は、成長過程にある青少年に大きな影響を与えている。特に地域の連帯意識の希薄化、社会的な体験を積む場や機会の不足、有害な情報の氾濫など、青少年を取り巻く環境は良好とはいえない。このなかで、青少年の問題行動や規範意識の低下が大きな社会問題となっている。</li> <li>新しい時代の担い手である青少年が、心身ともに健やかに成長するよう、各種の体験活動やボランティア活動等の社会的な活動への参加を促進するとともに、リーダーを育成しながら自主的な活動の活性化を進める必要がある。</li> <li>このような青少年活動を支えるには、家庭、学校、地域が連携した地域ぐるみの活動が重要である。</li> </ul>			
基本方針	<p>青少年の社会的な活動を支援し、郷土に誇りをもち、何ごとにも前向きに取り組んでいける青少年を育成していく。</p> <p>また、青少年の健全育成活動を地域ぐるみで進めるよう支援に努める。</p>			
【小項目】 施策展開の方向	① 青少年活動の促進	H19 決算額(千円) 1,136	H20 決算額(千円) 1,283	H21 決算額(千円) 1,125
	② 健全育成の環境づくり	H19 決算額 8,207	H20 決算額 8,102	H21 決算額 7,920
H21 年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年や子どもたちの体験学習に関する事業を実施するとともに、青少年相談員の活動を支援した。</li> <li>市民ぐるみの青少年健全育成活動を担う深谷市子どもサポート市民会議や、青少年育成推進員の活動を支援するとともに、両者をはじめとする各種団体と市が連携して青少年健全育成市民大会などの事業を実施した。</li> </ul>			
総合評価	<b>B</b>	※評価の目安 A：特によい B：よい C：あまり思わしくない D：思わしくない		
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>合併時に減少した青少年相談員の数は徐々に増加しており、事業のマンネリ化の解消などが課題であるが、活動回数を維持しながらボランティアで熱心に活動しており、その取組は評価できる。</li> <li>深谷市子どもサポート市民会議や各地区青少年健全育成会、青少年育成推進員の皆さんの「防犯パトロール」をはじめとする見守り運動への取組は大いに評価できる。</li> <li>青少年の健全育成は各地区青少年健全育成会や各種団体を中心に進めているが、小学生の登下校時の見守りや3つの運動（すすんであいさつをしよう、ことばを大切にしよう、脱いだ靴をそろえよう）など、市民一人ひとりの活動との協働が課題であるため、Bと評価とした。</li> </ul>			

## 評価指標

①

各公民館・生涯学習課・青少年相談員主催事業に参加した青少年数（各年度の延べ人数）



※平成21年度は、上柴公民館が改築により使用できない期間があるため減少している。

②

青少年リーダー数（各年度の青少年相談員の実人数）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
リーダー数(人)	46	27	28

目標(平成24年度)  
60人

③

街頭における啓発活動回数（青少年育成推進員による各年度の活動回数）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
活動回数(回)	7	9	9

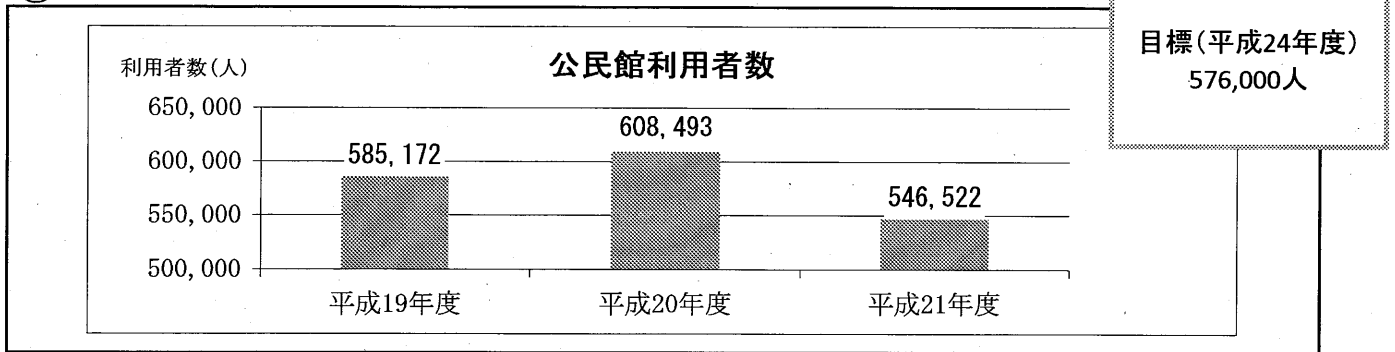
目標(平成24年度)  
10回

【中項目】 施策名	(4) 生涯を通じた学習活動の推進
--------------	-------------------

評価担当課	図書館	関連課	生涯学習課	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化の進行や価値観の多様化等による自由時間の増大を背景に、心のゆとりを取り戻し、健康で生きがいのある生活を求め、多様な学習活動へのニーズが高まっている。また、団塊世代が定年退職の時期を迎えていることもあって、学習ニーズはさらに高まっていくと見込まれる。</li> <li>・本市では、12か所の公民館（生涯学習センター）を中心に、図書館等も活用しながら生涯学習活動が活発に展開されている。しかし、施設が充実する一方で、これらを利用して活動する市民が固定化する傾向にあり、学習活動への参加者を拡大していくことが課題となっている。</li> <li>・今後は、地域への興味や関心を高めるとともに、学習を通じて身につけた知識や技術を地域社会で生かしていくための仕組みづくり等を進め、生涯学習活動を地域社会の活性化に結びつけていく工夫が必要である。</li> <li>・高度情報化やグローバル化の進展、産業構造の変化など、社会経済の変化に伴って、市民は新しい知識や技能を修得することも求めており、大学や企業とも連携しながらリカレント教育に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>			
基本方針	<p>市民の生涯学習の場となる施設の整備・充実を進めながら、市民の多様な学習ニーズに応じられる学習機会の提供と学習活動の支援に努める。</p> <p>また、図書館の整備・充実を進める。</p>			
【小項目】 施策展開の方向	①学習機会の提供と学習活動の支援	H19 決算額(千円) 16,084	H20 決算額(千円) 29,456	H21 決算額(千円) 23,922
	②活動施設の整備・充実	H19 決算額 382,585	H20 決算額 135,387	H21 決算額 162,781
	③図書館の整備・充実	H19 決算額 64,406	H20 決算額 87,124	H21 決算額 78,185
H21 年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各公民館の学級講座や小学生を対象とした学習支援事業（がんばる〜ム）、芸術文化体験事業（アーティスト倶楽部）及び外国人参加の日本語教室を実施した。</li> <li>・上柴公民館を民間との協働による上柴複合施設として整備を行う。（H21・22年度継続）</li> <li>・平成22年度からの図書館窓口業務委託に向けた準備をした。また、図書館事業のお知らせ用の掲示を工夫し、参加者の増加を図った。</li> </ul>			
総合評価	A	※評価の目安 A：特によい B：よい C：あまり思わしくない D：思わしくない		
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習への関心が高まる中で、がんばる〜ムやアーティスト倶楽部の取組、図書館利用者の増加など成果を上げているが、社会状況や多様化する市民ニーズの変化を捉え、事業内容にはアンケート結果など市民の要望を反映していくことが重要である。</li> <li>・図書館事業では、資料貸出点数、読書活動参加者数ともに前年を上回り、資料貸出点数は年度目標を達成できた。今後は、図書館利用者や事業参加者の増加を図るため、専門書等の整備や、図書館事業の効果的なPRを行うことも必要である。</li> <li>・上柴公民館は複合施設として整備の目処が立ったが、今後は他の老朽化した公民館の整備計画が課題となるところである。</li> <li>・積極的に事業に取り組み、前述のとおり成果もあげていることから、Aと評価した。</li> </ul>			

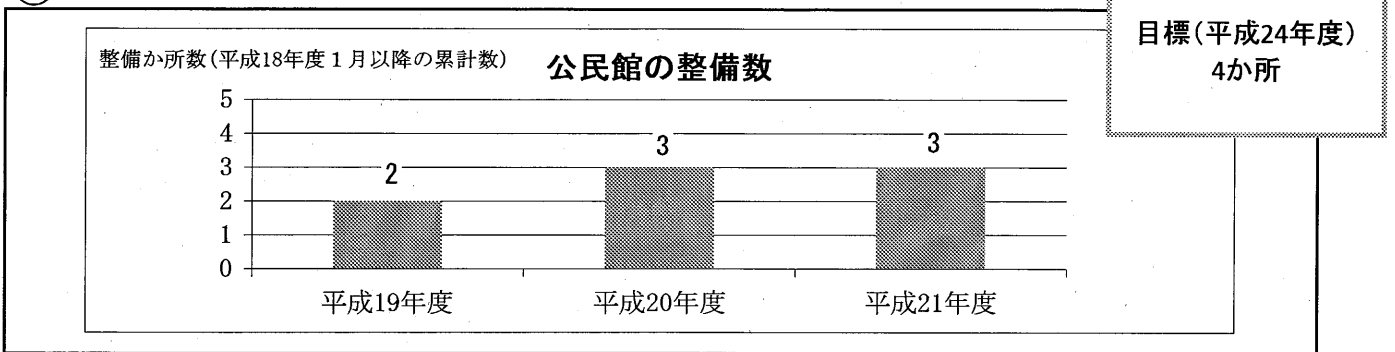
# 評価指標

①

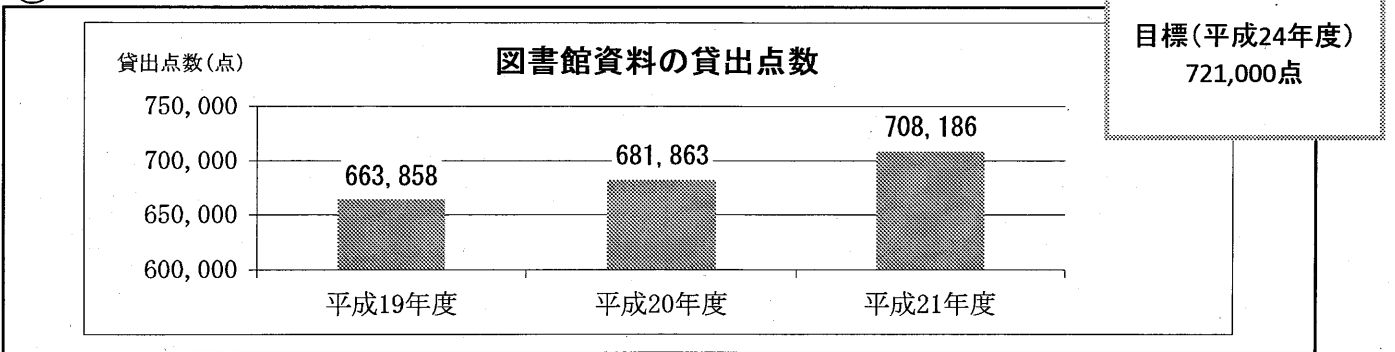


※平成21・22年度は、上柴公民館が改築により使用できない期間があるため減少している。

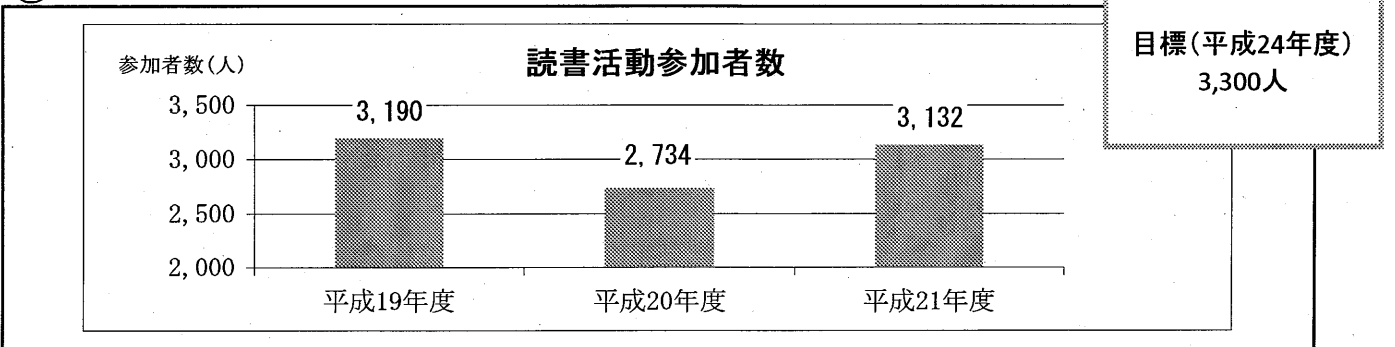
②



③



④



<b>【中項目】 施策名</b>	<b>(5) 深谷らしい文化の創造</b>
----------------------	-----------------------

評価担当課	生涯学習課	関連課		
<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市は古くから人々が生活してきた場所で、多くの遺跡があり、さまざまな文化財が残されている。近年の急激な時代の流れの中で、世代交代等から、個人所蔵の文化財を維持管理していくことが困難になりつつあり、文化財の保存・継承の取り組みを強化する必要がある。また、市内各地に伝えられる無形民俗文化財についても、これらを保存し後世へ継承していく活動を支援していく必要がある。あわせて、市管理の文化財の保存活用を進めている</li> <li>生涯学習活動が盛んになるとともに、人々に喜びと感動を与え、人生を豊かにする文化・芸術活動に対する市民の参加意識が高まっている。その参加意識を生かし、文化・芸術活動の活性化を図るためには、優れた文化・芸術に触れる機会を提供することが重要であり、同時に、文化団体等の自主的な活動を支援していくことも求められる。併せて、老朽化した文化施設の再整備も必要である。</li> </ul>			
<b>基本方針</b>	先人の守り伝えてきた郷土の文化を学び、それを次代に伝えていくとともに、市民がこころ豊かな生活を送れるよう、市民の文化・芸術活動の活性化を図ります。			
<b>【小項目】 施策展開の方向</b>	①伝統文化の保存・継承と活用	H19 決算額(千円) 73,513	H20 決算額(千円) 69,420	H21 決算額(千円) 92,650
	②文化・芸術活動の活性化	H19 決算額 106,151	H20 決算額 111,731	H21 決算額 475,456
<b>H21 年度の取組</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>台耕地遺跡等の埋蔵文化財の発掘調査等を実施し、発掘調査報告書を 11 冊刊行した。重要文化財「旧煉瓦製造施設」の臨時公開を行い、大変好評だった。「瀬山の五輪塔」修理をはじめ、指定文化財の保存に関する支援を行い、旧渋沢邸「中の家」、誠之堂や清風亭等の文化財施設を適切に管理した。一方、「出張博物館 in 深谷」などの展示会を行った</li> <li>渋沢栄一翁の生家である「中の家」や誠之堂・清風亭の観覧者は年々増加しており、市内外の方々に栄一翁の功績を周知することができた。</li> <li>歌舞伎公演、マリンバのクラシックコンサートや市原悦子朗読会、市収蔵の美術品展を開催した。また、NPO などの市民団体との協働による文化振興活動を実施した。</li> </ul>			
<b>総合評価</b>	<b>B</b>	※評価の目安 A：特によい B：よい C：あまり思わしくない D：思わしくない		
<b>評価コメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種発掘調査を確実に実施するとともに、日本煉瓦旧煉瓦製造施設（ホフマン輪窯）等の重要文化財の一般公開に努力している点は高く評価できる。今後は、観光協会やJRなどの公共交通機関と連携した「(仮称) 深谷市近代遺産めぐり」などの企画により、文化財の重要性と歴史的価値の周知に取り組む必要がある。</li> <li>文化・芸術活動の取組は補助事業を活用し、歌舞伎から朗読会まで幅広いジャンルを題材に実施しており、評価できる。今後は、市民団体との協働による取組を強化し、活動のすそ野を広げることが重要になる。</li> <li>様々なことに積極的に取り組み多くの事業を実施しているが、日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設保存活用計画の策定や花園文化会館の自主事業実施時の入場者をどのようにして増やすかなど、課題もあることから B と評価とした。</li> </ul>			



## 評価指標

①

申請された指定文化財保存事業の実施件数（平成18年1月以降の修理等件数の累計）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
実施件数(累計)	2	3	6

目標(平成24年度)  
7件

②

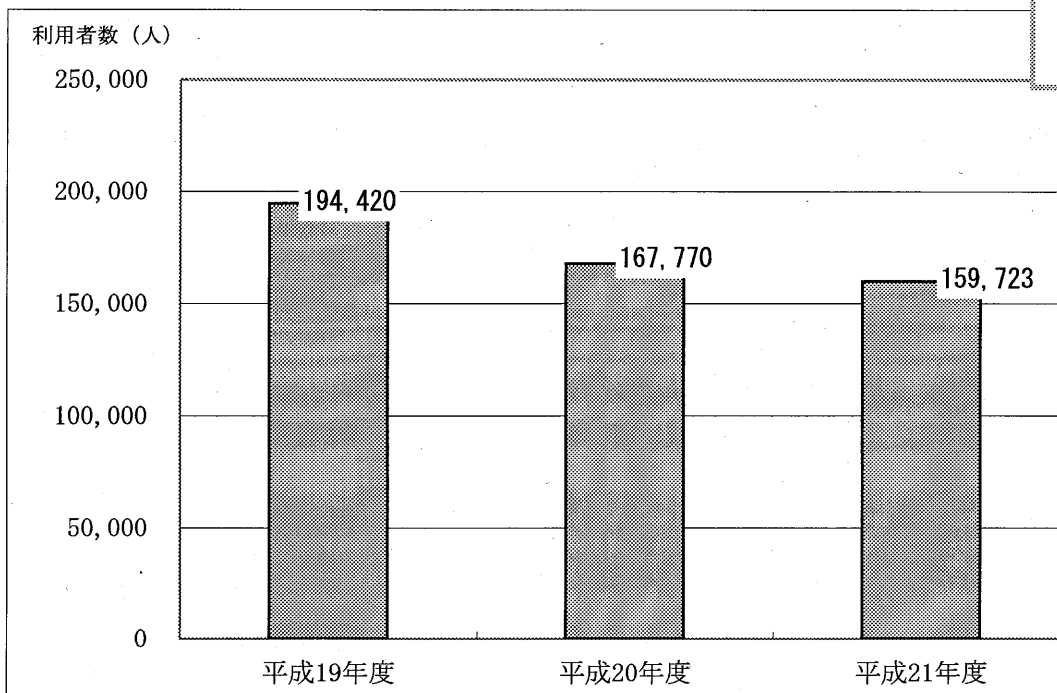
文化会館における自主事業件数（各年度の実施件数）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
実施件数	3	4	4

目標(平成24年度)  
6件

③

文化会館の利用者数（各年度の観客等の延べ人数）



目標(平成24年度)  
220,000人

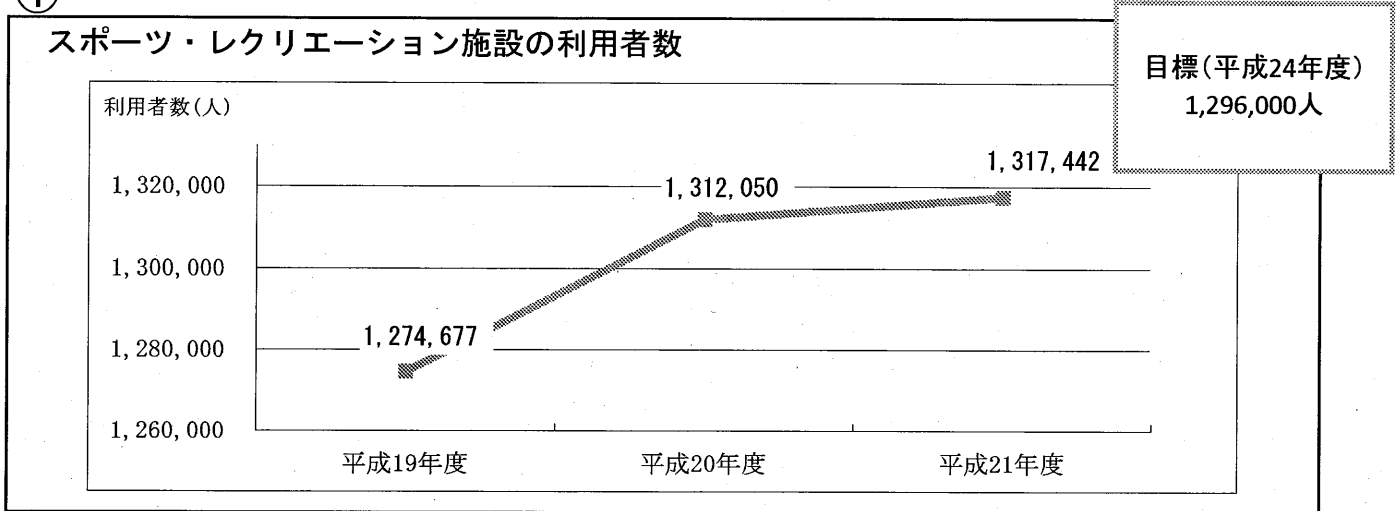
※平成21年度は、市民文化会館が改修工事で3カ月間閉鎖されたため利用者が減少した。

【中項目】 施策名	(6) 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進
--------------	------------------------------

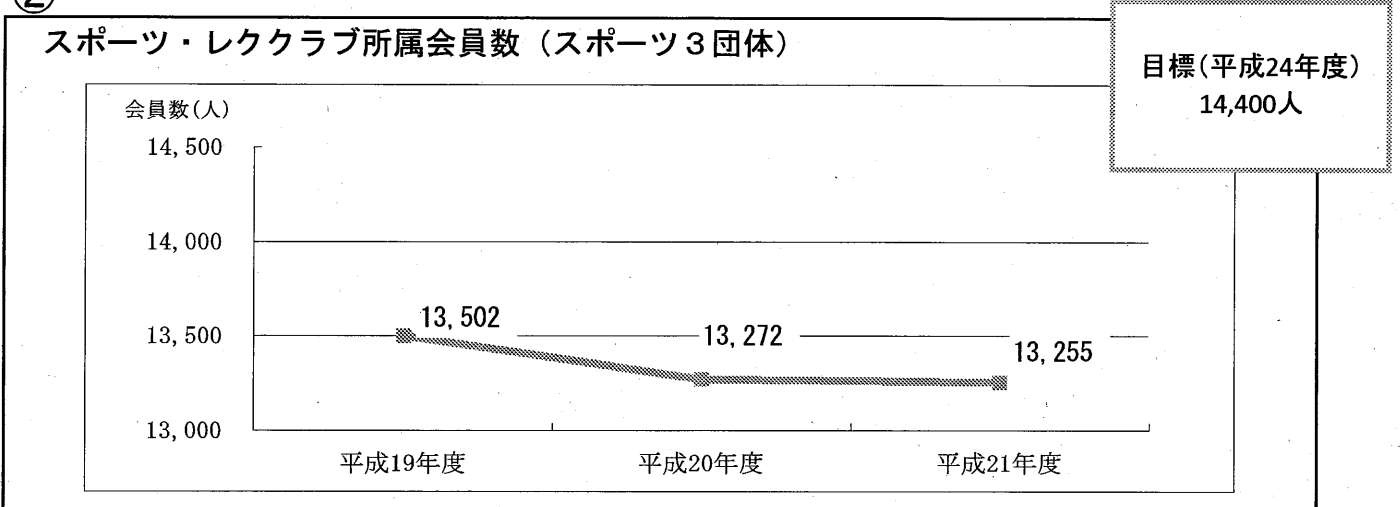
評価担当課	スポーツ振興課	関連課		
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑・多様化する現代社会においては、精神的なストレスや運動不足の問題が大きく取り上げられるとともに、高齢化の進行もあり、健康志向は年々高まりを示している。</li> <li>・スポーツ・レクリエーションへの関心も高まり、市民の多様な活動が広がっている。</li> <li>・市内には、総合体育館（深谷ビッグタートル）、市民体育館、B&amp;G海洋センター、市営グラウンドをはじめ、深谷グリーンパーク・パティオ、川本サングリーンパーク、公民館に附属した体育室等があり、スポーツ・レクリエーション施設は比較的充実している。</li> <li>・これらのスポーツ施設の有効活用及び利用促進を図ると共に、市民の自主的な活動を支援しながら、だれもが気軽にスポーツ・レクリエーション活動に参加できるよう、条件整備を進める必要がある。</li> </ul>			
基本方針	だれもが生涯を通じて自らの年齢や体力に応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しめるよう、活動環境の整備・充実に努めるとともに、活動の支援を推進する。			
【小項目】 施策展開の方向	①スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	H19 決算額(千円) 107,001	H20 決算額(千円) 95,744	H21 予算額(千円) 104,659
	②スポーツ・レクリエーション活動の活性化	H19 決算額 40,046	H20 決算額 52,071	H21 予算額 26,349
H21 年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ・レクリエーション活動の活発化を図るため、市民及びスポーツ団体等を対象として「ふかやシティハーフマラソン」をはじめとするスポーツ大会・教室の開催、体育協会・レクリエーション協会・スポーツ少年団への活動支援により市民がスポーツ・レクリエーション活動に参加する機会の充実を図った。</li> <li>・市民活動の拠点となるスポーツ施設の整備・充実に努めるとともに適正な管理運営を行い、身近な場でスポーツに親しめる環境づくりを行った。</li> </ul>			
総合評価	<b>B</b>	※評価の目安 A：特によい B：よい C：あまり思わしくない D：思わしくない		
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育協会・レクリエーション協会・スポーツ少年団の3団体主催による市民大会や教室等が活発に実施されるとともに、市主催の最大のイベントであります、「第4回ふかやシティハーフマラソン」には過去最高となる4,623人が参加し、大会関係者の協力と努力の結果、ランナーズ（ランニング情報誌）の「2008,2009と2年連続で全国ランニング大会100撰」に選出された。</li> <li>・各スポーツ施設の適正な管理運営により、施設利用者からの苦情や事故の発生がなかったという点は評価できる。しかし、各施設共に設備や用器具等の老朽化が進んでいるため、修繕等も今後増加することが予想される。市民に安全で快適な施設利用を提供するため、これまで以上に施設の適正かつ効率的な管理委託業務発注、巡回・点検並びに修繕等に取り組む必要がある。</li> </ul> <p>以上のように、高評価であるが課題もあることから総合評価をBとしました。</p>			

# 評価指標

①

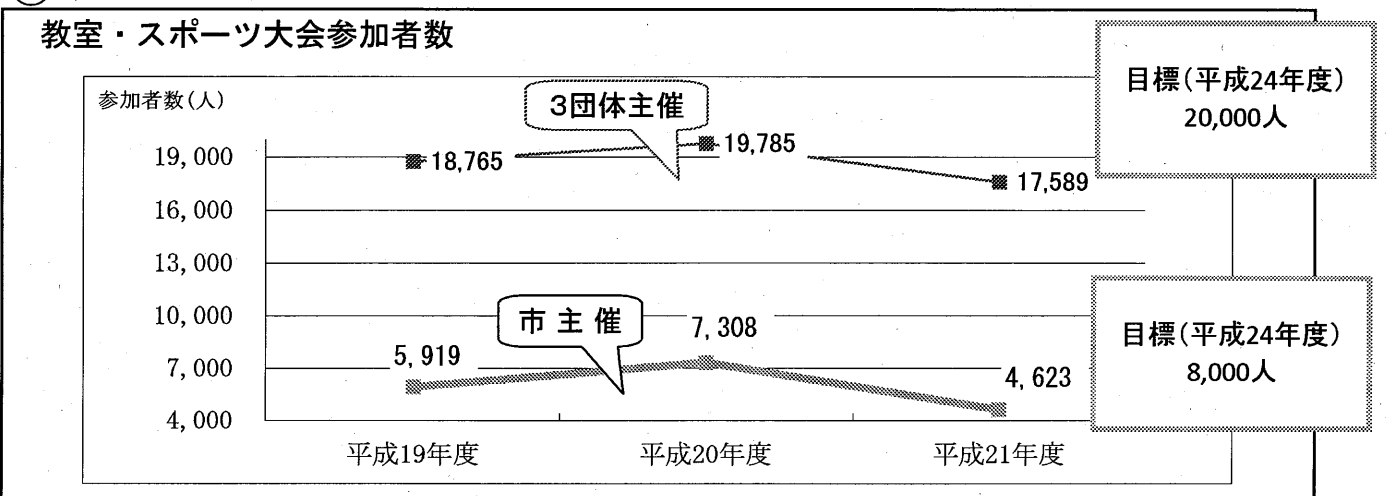


②



注) 3団体：体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団

③



## 6 結びに

深谷市教育委員会では、深谷市総合振興計画における〈教育・文化〉の分野として位置づけられている、「次代を担う人と文化を育むまちづくり」を構成する6つの項目を柱として様々な教育施策を展開し、その結果について点検評価を行いました。

点検評価の結果については、6つの評価項目すべてにおいてB（よい）以上となるなど、一定の評価は得られていますが、各評価項目を個別に検証した場合には、以下のとおり課題の残る項目も見受けられる状況でした。

まず、評価項目「(2) 家庭・地域の教育力の向上」では、家庭教育だより「まごころ」の発行や、家庭教育学級の開催などについては評価されたものの、「家庭の教育力向上」や「地域の教育力の向上」については、関係者のみならず地域全体に事業を浸透させ、参加して頂くための対策が必要である。ということが課題としてあげられました。評価項目「(3) 健全な青少年の育成」では、青少年相談員の活動や、青少年に対する各種ボランティアの「見守り運動」の実施は評価されるものの、市民一人ひとりとの「協働」が課題としてあげられました。評価項目「(4) 生涯を通じた学習活動の推進」については、がんばルームやアーティストクラブの取組、図書館利用者の増加など成果をあげていますが、公民館整備計画の策定が課題としてあげられています。また、評価項目「(5) 深谷らしい文化の創造」については、各種発掘調査の実施及び重要文化財の一般公開に努力している点は評価されていますが、重要文化財の保存計画の策定や、自主事業に対する入場者をどのように増やすかなどの課題もあげられています。評価項目「(6) 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進」については、各種団体の主催による市民大会や教室等が活発に実施されていることや、市主催による「ふかやシティハーフマラソン」の開催については高評価を得ていますが、各施設においては設備や用器具等の老朽化が進んでおり、これらの適正な運営管理が必要とされる点が課題としてあげられています。

教育委員会としては、以上のように一定の評価を得る中にも、まだまだ課題とされる点が多数あることを踏まえ、課題とされる事項に対しては、今後、事業の見直しや新たな事業展開の検討、保護者や地域、関係機関等との連携を図るなど、目標達成に向けた継続的な改善に取り組みながら各種施策を展開していくことが重要であると考えます。

今回の点検評価を行うに当たり、その客観性を確保する観点から、次の学識経験者にご意見等をいただきました。

益田 裕充 群馬大学教育学部准教授  
根岸 守康 深谷市代表監査委員

教育委員会の所管する行政事務は、学校教育、生涯学習、生涯スポーツの振興、図書館サービスなど、多岐にわたりますが、社会環境の変化を踏まえ、創意工夫をこらし、効果的な教育行政を推進してまいります。

平成 22 年度

教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

発 行 平成 23 年 2 月  
編 集 深谷市教育委員会

〒366-0823

深谷市本住町 17-3

TEL 048-574-5811

FAX 048-574-1744

